

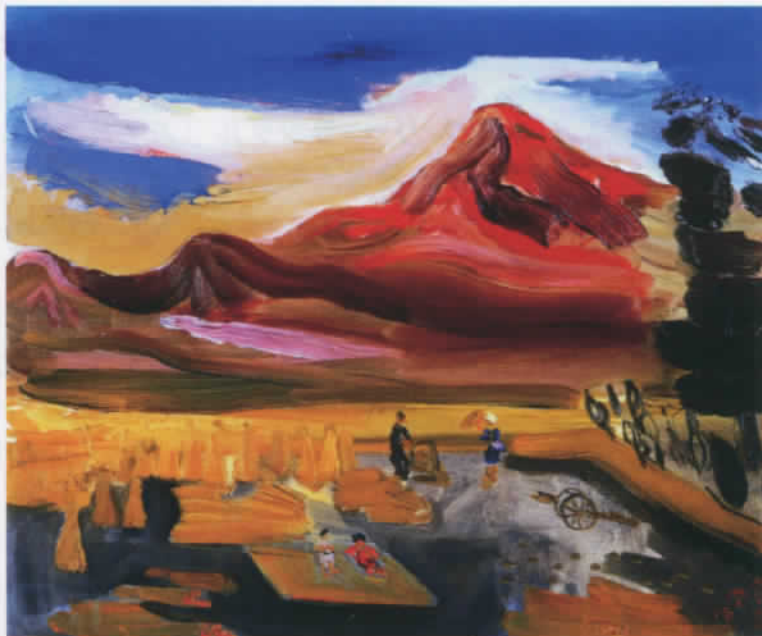
『 野口謙蔵展にむけて 』

砺波市美術館 学芸員 末永忠宏

会期：4月12日(土)～6月1日(日)

2014年は、砺波市と庄川町が合併して10周年にあたります。また、富山を代表する春恒例のイベントとして2014となみチューリップフェアが開催されます。この記念すべき時に「野口謙蔵展」を開催する運びとなりました。

野口謙蔵は1901年6月に、滋賀県蒲生郡桜川村綺田(かばた)に生を受けました。東京美術学校、現在の東京藝術大学で西洋画を学び同校で黒田清輝、次いで和田英作に学びます。卒業後は故郷に帰り、万葉集にも詠われた「蒲生野(がもうの)」の風景や人々の姿、自然の草花といった、日常の世界の中に題材を求め、独自の表現で描き続けました。決して長いとは言えない43年の生涯を、詩情に満ちた絵画の世界に捧げています。



野口謙蔵・山村豊秋・1935

昭和6年の第12回帝展で《獲物》が特選となり、同8年の第14回帝展で《閑庭》が特選、さらに翌9年の第15回の帝展で《霜の朝》が特選と3度特選をとるといふ、日展の歴史を振り返ってもみても極めて稀な栄誉を手にしなが、いまひとつその名が人口に膾炙しえないのは、さまざまな要因が考えられるでしょうが、没後70年経った過去の画家であることが上げられるでしょう。終戦間近の昭和19年に病を得ての急逝でしたが、もし画家が長命を得ていたら、必ずや安井曾太郎や小出楯重に続く近代日本洋画家として名を連ねたと私は確信します。

野口謙蔵は蒲生野をモチーフに油絵を描き続けました。美大卒業から数えて20年の活動期間に、実に800点もの作品を描いたと言われていいます。

準備に際し、蒲生野の野口愛好家を尋ね、画家にまつわる様々な挿話を伺いました。本展はそうした方々の熱い想いと励ましに支えられた展覧会です。滋賀県立近代美術館と東近江市教育委員会が所蔵する作品を柱として、展覧会の出品作などの大作や秀作を、美術館や所蔵家の多大なご理解とご協力を得て公開します。

「あかねさす蒲生野の画家 野口謙蔵展」と題して、2014年4月12日より6月1日まで、51日間の会期で代表作51点を集めて展覧します。何とオープン日の12日は、1986年の滋賀県立近代美術館で催された野口展と全く同じ日です。同日は滋賀県立近代美術館の野口展担当の高梨純次さんにご講演頂きます。こうした諸々の出来事が時を超えて結びついたことに、担当事としては何やら因縁を感じております。どうぞご期待ください！



砺波市美術館3階に

「立山連峰パノラマ展望図スタンド」設置

2月21日、美術館では4月23日に開幕するとなみチューリップフェアに向けて、3階展望プロムナードに、美術館から望む雄大な立山連峰の写真パネルを設置しました。洋画家 林清納さんによると、砺波市美術館から眺める立山連峰が絵画的には県内随一だと太鼓判を押されています。美術鑑賞とともに、雪を冠った雄山、別山、剣岳などの雄々しい姿をお楽しみください。

影絵と人形の夕べ 『MOVING SHADOW「動く影絵」』

平成26年5月25日(日) 午後6時開演
 会場：2F市民ギャラリーにて
 入場無料

To the Moon



影絵&パペット mao companyの方々をお迎えし、となみ芸術文化友の会「影絵と人形の夕べ」を開催します。

〈出演者〉ジャック・リー・ランダル (アメリカ・ジョージア州アトランタ出身)

1995年よりアメリカの最大人形劇団“The Center for Puppetry Arts”で活躍後、2003年ALT(外国語指導助手)として来日。富山県を拠点とし、各地で人形と影絵のパフォーマンスを上演するほか、新日本フィルハーモニー交響楽団をはじめ多くの音楽家や浪曲師国本武春、女優紺野美沙子、また映像作品として立川志の輔師匠、ロックバンド UVERworldなどと共演し、活躍の場を広げている。最近では「柴田理恵認定! ゆるゆる富山遺産」に出演。

いのうえ たかし

12歳からギターを始める。ジャンルを問わず、ブルースからロックまで多くのバンドに在籍し、ソロでも富山県内外でライブを開催。最近では多彩なアレンジで影絵とのコラボレーションをしている。



影絵風景

広田郁世 影絵&パペット mao company 代表。日本画家。

2010年に砺波市美術館で第11回至高の精神展 広田郁世「在る日の風景」を開催。射水市在住。

砺波市美術館・砺波市文化会館からのお知らせ

砺波市美術館・砺波市文化会館は、平成26年4月1日より年末年始(12月29日～1月3日)を除き、年中無休となりました。但し、管理上各種法令に基づく会館施設設備の点検、展示替え等でやむなく休館することがございます。以下お知らせいたします。(平成26年度 施設設備点検及び休館の予定日)

砺波市美術館

H26				H27			
4月	7(月)、14(月)	7月	7(月)、14(月)、15(火)	10月	6(月)、7(火)	1月	1(木)～3(土)、19(月)
5月	12(月)、19(月)	8月		11月	10(月)、17(月)	2月	9(月)、16(月)
6月	16(月)～20(金)	9月	1(月)～5(金)、22(月)	12月	15(月)、29(月)～31(水)	3月	2(月)、16(月)

砺波市文化会館

H26				H27			
4月	8(火)、21(月)、22(火)	7月	8(火)、22(火)	10月	20(月)、21(火)	1月	1(木)～3(土)、13(火)、26(月)、27(火)
5月	13(火)、27(火)	8月	12(火)、25(月)、26(火)	11月	11(火)、25(火)	2月	10(火)、24(火)
6月	10(火)、24(火)	9月	9(火)、22(月)	12月	2(火)、29(月)～31(水)	3月	10(火)、24(火)

編集後記

東日本大震災から三年。その日歌人の俵万智は東京の新聞社にいた。両親と息子のいる仙台に帰ることが出来たのは、四日後だった。縁あって今は、沖縄の石垣島に住む。昨年出版の歌集「オレがマリオ」で小学生の息子との会話を載せている。「でんしよせきって何」説明してやると、ちょっと考えた後、こんなことを言う。「便利だね！でもオレは、コロコロコミックをめくるとき、顔に感じる風が好きなんだよな」

「オレが今マリオなんだよ」島に来て子はゲーム機に触れなくなりぬ 俵万智

小さい頃、砺波駅前にはタナベやクマヨの貸本屋があり、よく漫画を借りた。(O)